

## 編集後記

『都市文化研究』第17号をお届けします。本号では、「論文」5編、「研究ノート」1編、「研究展望」1編、「翻訳」1編、「書評」1編、「海外レポート」3編を掲載することができました。投稿件数が例年にも増して多くなっており、UCRC 研究員や若手の研究者をはじめとする各研究者が、それぞれの研究領域・研究アプローチの相違を越えて互いに切磋琢磨する姿が窺われます。

本号では、これらの研究成果に加えて、2013年12月8日に開催された文学部創設60周年記念シンポジウムの内容も掲載しています。このシンポジウムは、本誌刊行の直接的な契機となった「21世紀COEプログラム」の採択から現在に至るまでの、本研究科における「都市文化研究」の歩みを振り返り、今後進むべき方向性を探るための貴重な機会となりました。併せてご一読いただくと幸いです。

なお、今回の表紙写真には、本号掲載の「翻訳」ならびに「海外レポート」の執筆者でもある前田充洋氏にご提供いただきました。北ドイツの寒空に凜とそびえる城砦の姿が印象的なスナップです。前田氏にはこの場を借りてお礼申し上げます。

(祖田亮次・編集委員長／長谷川健一・第17号編集主任)

## 編集委員

- 祖田 亮次・編集委員長 (大阪市立大学大学院文学研究科准教授, UCRC 常任研究員, 地理学)  
長谷川健一・第17号編集主任 (大阪市立大学大学院文学研究科講師, ドイツ語フランス語圏言語文化学)  
川野 英二 (大阪市立大学大学院文学研究科准教授, 社会学)  
久堀 裕朗 (大阪市立大学大学院文学研究科准教授, UCRC 常任研究員, 国語国文学)  
佐賀 朝 (大阪市立大学大学院文学研究科教授, UCRC 常任研究員, 日本史学)  
滝沢 潤 (大阪市立大学大学院文学研究科准教授, UCRC 常任研究員, 教育学)  
平田 茂樹 (大阪市立大学大学院文学研究科教授, 東洋史学)  
イアン・リチャーズ (大阪市立大学大学院文学研究科准教授, 英語英米文学)

岡村 俊史・編集補佐